



2021年9月12日の御報恩御講、宗祖御難会法要の様子



慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ

四条金吾殿は主君の江間光時を折伏したことなどにより、数年にわたり出仕停止や領地没収などの苦境に立たされた。しかし結果として以前にも増す信頼を主君から得ることとなった。主君に忠義を貫き、大難に敢然と立ち向かい、決して妙法を捨てることのない四条殿に対し大聖人は、「陰徳あれば陽報あり」の大果報と褒められ、成仏疑いなしと約束された。そして仏の智慧が深遠なるを、「根の深い樹木」と「源の遠い川」に譬えられ、この末代悪世に根をはり、尽きず流れ栄える妙法の偉大なるを示された(御書1391頁)。御本尊の功德・仏力を心から信じ、身も心も南無妙法蓮華經に捧げ、大聖人の御教えを受持し続ける人に一生成仏と絶対の幸福が約束される。我々も四条金吾殿を信者の鏡として、信仰を深めてまいろうではないか。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その14)

昭和53年11月7日、総本山大講堂において開催された、通称「お詫び登山」の席上、まず北条理事長(当時)は、「①折伏した人は信徒として各寺院に所属させること。②当山の教義を守ること。③仏法僧の三宝を守ること」という学会の宗教法人設立時の三原則を確認のため陳述した。さらに「宗門、寺院、僧侶を軽視する方向へと進んでしまったことも事実であります。今、このことを総括するに、問題を起こした背景に、宗門の伝統、法義解釈、化儀等に対する配慮の欠如があったことを率直に認めなければなりません。ともかく、この意識のズレ、配慮の欠如がその後の対応のなかでもあらわれ、そのことが、問題をここまで発展させてしまったのであります」と謝罪した。(次回は北条氏の謝罪の続きと辻副会長、池田の謝罪)

③ 正しい信仰を求めている方へ(断末魔について)

断末魔(だんまつま)とは、「末魔により断つ」と読む。末魔は体中の死節、死穴と訳し、身体の致命的な部位をいう。この死節(末魔)は体の各所に百を越えるとし、これに触れると激痛のもと命を断絶する。これを「断末魔」という。当家第二十六世日寛上人は、人が臨終の時に心が乱れるゆえんを三つあるとして、その一つに「断末魔の風が身中に走り、そのとき骨と肉が離れる。この風の痛みは千の鋭い刃物とその身を刺すが如し」(趣意)と示されている。死に直面した際、迷いなく泰然自若であることは本来難しいことであろう。日蓮大聖人は臨終正念の大事なるを説き、信仰の目的も究極はそこにある。日頃の仏道修行によってその用心、臨終正念が叶う。それは御本尊と自分が一体と思惟して題目を唱える事である。お待ちしております。

第56号

# 法遍寺 から大切な 皆様へ

2021年10月1日

日蓮正宗 年間方針

宗祖日蓮大聖人  
御聖誕800年の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

人材育成と折伏実践

年間実践テーマ

① 日々勤行・唱題の実践

功德の源泉

一家和樂の信心

② 折伏実践こそ最善の報恩行

御命題達成

誓願成就

③ 寺院参詣と登山で人材育成

無始の罪障消滅

一生成仏

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料